

東日本大震災後の復興食堂から出発して 10 年
東北人が関西へ情熱をこめて美味しいものを届ける
「東北わくわくマルシェ」



■物販コーナーと地酒 BAR”とうほく”



■社員とお客様の様子

西日本の百貨店での催事出店を中心に、東北 6 県の食品・飲料の販売を行う株式会社東北わくわくマルシェ（本社：奈良市高畑町 1071 代表取締役 東 正教）は、東北の美味しいものを関西で PR することで、復興支援につなげたいという思いで、2013 年に JR 大阪駅での復興屋台村から事業をスタートし、2023 年で事業開始 10 年を迎えました。東北地方の商品を多数扱う物販企業として日本唯一です。

当社の使命は、東北と関西、そして全国をつなぐことです。現状では西日本出身者の 7 割は東北に行っただけがなく、東北は「遠い」「知らないところ」と思われています。（※）しかしこの 10 年の取組みの中で、東北ファンを増やし、人とのつながりを築いてきました。関西ではあべのハルカス近鉄本店やハンズなどの全国物産展に毎年出店依頼があり、2023 年 6 月に出店した博多阪急「東北物産大会」は 8 回目を重ね、史上最高売上を記録しました。現在、直接取引している東北の企業は 50 社以上、当社との取引が年間売上の大部分を占める企業もあります。東日本大震災から 10 年、東北には数えきれないほどの美味しいものがあることを伝えたいという思いで、これからも東北と人をつないでいきます。ぜひ、貴番組での取材をお願いいたします。

※ 70%が「用事など以外で東北に行ったことがない」、85%がその理由として「よくわからない」「アクセスが悪い」と回答。（2023/6/12 ノプレスグループ社内アンケート実施 人数：93 人 関西出身 72%）

＜東北わくわくマルシェの特徴＞

- ① 「東北のために何かしたい」と集った東北人が探してきた商品を西日本に紹介し、磨き上げる
- ② 明るく楽しく！東北の美味いもん・旨い地酒と会話を通してお客様と友達のような接客
→立ち飲みイベント「地酒 BAR”とうほく”」は、リピーターが半数以上、LINE でつながっている女性客も多く、週末は開店早々行列の絶える暇がないほどの人気コンテンツに成長。
- ③ 常に新しい発見のある売り場

→常時 200 点を品揃え、年 1 回は直接東北に出向き、毎年 2 割は商品を入れ替え。蔵元との連携で東北わくわくマルシェ PB の地酒も次々に開発、人気の定番商品としてお客様にご愛顧いただいている。

④ 取引先の 6 割は再興から 10 年にわたり開発・取引いただいていた東北のメーカー・生産者・酒蔵
→直接やりとりすることで、その商品に対する思いを聞き、お客様に良さを伝えることができる。

＜7月催事の紹介＞

『スイーツフェスタ&アンテナショップ』

期間：2023 年 7 月 20 日(木)～7 月 25 日(火) 6 日間

営業時間 10 時～19 時(最終日 18 時)

会場：京阪百貨店守口店 8 階催事場

※東北わくわくマルシェは 100 種類(酒 20 種 食品 80 種)販売予定(当社過去最大の販売スペース)

＜会社概要＞

株式会社東北わくわくマルシェ

代表取締役：東 正教

取引先：53 社(2023 年 6 月現在) ※内訳：食品 44 社・酒 9 社

年間 30 件以上の百貨店等の催事に出店、年間販売点数は 123,000 点(2023 年 6 月時点)。

＜沿革＞

2011 年 盛岡市の広告会社でイベントプロデュースなどに従事していた雫石父が県央部の有志や企業と共に、沿岸被災地で毎週末行っていた炊き出しイベント「いわて三陸復興食堂」で、関西から支援に駆け付けたノブレスグループ代表川井と出会う。

2013 年 復興屋台村「東北わくわくマルシェ」を JR 大阪駅前に展開(運営/ソーシャル・サイエンス・ラボ)

2014 年 大阪・芝田町に商談スペース付属のアンテナショップ開店。飲食、バイヤー向け現地ツアー開始。

2015 年 JR 大阪エキナカに東北アンテナショップ&地酒バル「Kaleidoscope (カレイドスコープ)」を開店。関西・四国・九州の百貨店での東北物産展、企業マルシェからの引き合いが増える。

2019 年 株式会社東北わくわくマルシェ設立

＜会社紹介＞

東日本大震災発生後、阪神淡路大震災の教訓から、神戸、関西から多くの方々が支援にかけつけてくれた。全てを失い風評被害にも翻弄され、販路も絶たれた被災事業者が、必死の思いで再興してきた東北のうまいものを関西の人に感謝を込めて届けたいという思いで、2013 年に事業開始。震災後の復興支援から始まったが、今は東北わくわくマルシェを通じ、新たな東北ファンを増やし・つながり続けることを目指している。

＜社員紹介＞

現在、社員 3 名。事業に参画していた父の姿を見て「東北のためになにかできないか」と、アパレル店員として販売力を磨いてきた雫石長男が 2014 年に加入。「いつか一緒にやると思っていた」と商品 PR イベントに従事していた雫石次男が 2021 年加入。その姿と思いを感じ、滋賀県出身のスタッフも加入。また各地での催事ごとに雇う販売スタッフも、東北のわくわくマルシェの思いを理解し、情熱をもって接客に加わっている。

＜問い合わせ先＞

株式会社東北わくわくマルシェ ノブレスグループ広報担当：小島(おじま)

Tel：0742-22-1555

Mail：h-ojima@noblesse.co.jp 東北わくわくマルシェ HP：<https://t-fukko.net/>